令和８年３月５日

令和７年度とうきょう すくわくプログラム推進事業　活動報告書

園名	江東区立つばめ幼稚園
所在地	江東区扇橋３－２０－１３－１０１

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

本園は身近な「自然と関わる体験」を重視しており、自然環境の工夫や自然体験の機会等の充実を図っている。

園で飼育しているモルモットが亡くなってしまい、命について考えたり、新しいモルモットを迎える経験をしたりした。また、大事にしているカメに卵が産まれ、赤ちゃんガメが産まれてくるのを楽しみにしながら、毎日観察する様子も見られた。

そこで幼児期に自然に親しみをもったり、自然を大切にする心が養われたりするような経験の機会が大切であると考え、このテーマを設定した。

２．活動スケジュール

令和７年５月から令和７年３月まで。月に１０日程度、日々の保育の中で継続して活動した。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・園庭環境の充実（季節ごとの野菜や草花）

・命の大切さについて探究できる機会の創設（飼育動物との新たな出会い、移動動物園を招く、牧場への遠足）

・自然と関わり感じたことを表現したり、経験したことをさらに探究したりするための素材や道具（画材、十分な量の廃材や段ボール、写真、図鑑など）

４．探究活動の実績

＜活動の内容＞

・自然、生き物との関わりを通して、命の大切さを感じられるような活動を継続的に行った。
・飼育物（モルモット）を迎え入れる活動では、年長児がお店に迎えに行き、飼育するのに必要なことを専門家に聞いたり、自分たちで調べたりして、命を大切にするために必要なことを深く考える機会となった。
・園内、園外でいろいろな動物に触れる機会を設け、専門家に動物のことを考えた接し方について教えてもらった。見たり触ったりして、大きさや温かさ、におい等を実際に感じることを通して、命あるものとの出会いに感動し、命を分けてもらい自分の命がつながっていることを、身近な生活とつなげて考えることができた。

＜活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり〉

・小さな生き物を迎え入れ、命をつなぐために世話が必要であることへの理解が深まり、鳴き声を聞いて「お腹がすいてるんだ。早くお世話をしてあげようよ。」と幼児同士で声を掛け合う姿が見られた。
・生き物を大事に扱おうとする姿が増え、それを友達や自分より小さい人にわかりやすく伝えようとするようになった。
・餌をやる、乳を搾る体験を通して、動物の動きを見て、「嬉しいのかな。」「たくさん人がいるかな恥ずかしいのかもしれない。静かにしてあげようよ。」「赤ちゃんだから、そっと触ろう。」等、動物の立場に立った考え方や接し方をしようとする姿があった。
・動物と触れ合う経験後は、実際に感じたこと、楽しかったことを「温かった」「柔らかかった」と思い出しながら、素材を選んで再現して遊ぼうとする姿があった。

＜活動の様子＞

活動の様子が分かる写真を 2 枚以上貼付してください。
（HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

５．振り返り

（振り返りによって得た保育者の気づき）

・共通の経験をすることで、考えたこと・感じたことを伝えたい気持ちが高まり、言葉、動き、制作、描画など様々なで手段で表現しようとする。表現することで、命あるものへの理解が深まり、愛着や親しみの気持ちをより増していく。そしてそれは、自分や友達のことを大切にする気持ちにもつながっていく。

・親子で命あるものとの関わりの経験を積み重ねることで、こどもを介して園と家庭がつながり、共に探究を深めることができた。

以上